

学術版編集における視覚的要素の再現をめぐる検討

－ デジタル時代の編集文献学の新たな課題－

プロジェクト代表者：明星聖子（教養学部・教授）

1 研究目的

昨年から、新領域研究として編集文献学という学問領域について検討を重ねている。昨年は、その全体を理論的に把握するため、成立までの歴史的な理解に重点を置いた研究をおこなった。今年度はそこから一歩進んで、デジタル時代の当該分野の新たな課題であるイメージとテキストの融合をめぐる考察を深める。デジタルメディアでの出版が可能になった現在、盛んに議論されているのが、モノとしての書物の視覚的要素の再現に関する問題である。この問題は、とくに中世写本の研究における画像データの有用性が広く認識されて以来、イメージとテキストの複合的な研究環境の整備の課題として浮上した。今回の研究は、イメージの効用をすでに積極的に取り入れている中世およびルネサンス文学研究者と共に、「読むこと」に与える「見ること」の影響の再検討をおこないながら、文学研究制度の成り立ちそのものを見直し、考察を深めることを目的とする。

2 研究実施組織

明星聖子	埼玉大学・教養学部・教授	研究統括・ドイツ文学の見地からの検討
伊藤博明	埼玉大学・教養学部・教授	ルネサンス文学の見地からの検討
松田隆美	慶應義塾大学・文学部・教授	中世文学の見地からの検討

3 研究経過

本年度の主な活動は以下のとおりである。

- 2011年9月 Cambridge University Parker Library-Keio EIRI Conference で発表
イギリス・ケンブリッジ大学でおこなわれた Cambridge University Parker Library-Keio EIRI Conference on Medieval Manuscripts and Printed Books: “Text, Image and the Digital Research Environment”で明星が研究発表。当会議は、松田が代表をつとめる慶應義塾大学EIRIプロジェクトによって主催されたものである。

○ 2012年2月 The 8th Annual Conference of the European Society for Textual Scholarshipで発表

スイス・ベルン大学でおこなわれた The 8th Annual Conference of the European Society for Textual Scholarship, “InterNational and InterDisciplinary Aspects of Scholarly Editing” で明星が研究発表。ヨーロッパ編集文献学会の年次会議である今回の会議は、通常ドイツで2年に一度開催されるドイツ編集文献学研究会と合同で開催された。

* なお、当研究を包含する形の編集文献学に関する研究プロジェクトが、明星を研究代表者として科学研究費（基盤研究A）のプロジェクトとして採択されたのに伴い、2011年11月以降は、そのプロジェクト「編集文献学に関する総合的研究」の一部として活動した。2012年3月までに科研費プロジェクトとしておこなわれた全10回のミーティング及び研究会のうち、当該テーマと成員に関わるミーティング及び研究会は、以下の3回である。

- ・ 2011年12月 プロジェクト全体ミーティング（於：東京大学）
- ・ 2012年1月 プロジェクトグループ研究会（於：慶應義塾大学）
- ・ 2012年3月 プロジェクトグループ研究会（於：慶應義塾大学）

4 研究成果

平成 23 年度に発表した研究成果は以下のとおり。

- ・ Kiyoko Myojo : “Images Which Were Not to Be Reproduced: Ironic Aspects of Kafka’s Texts”, Cambridge University Parker Library-Keio EIRI Conference on Medieval Manuscripts and Printed Books: “Text, Image and the Digital Research Environment”, Cambridge/England 2011/09.
- ・ Kiyoko Myojo : “The Contradictory Task of The Scholarly Translator”, The 8th Annual Conference of the European Society for Textual Scholarship, “InterNational and InterDisciplinary Aspects of Scholarly Editing” Bern/Switzerland 2012/02.
- ・ 明星聖子・神崎正英他訳・ルー・バーナード他編 『人文学と電子編集』, 慶應義塾大学出版会, 2011年
- ・ 明星聖子「カフカ研究の憂鬱—高度複製技術時代の文学作品」, 松田隆美編『書物の挿絵とパラテキスト（仮題）』（慶應義塾大学出版会）2012年刊行予定

* 上記の成果のいずれも一部に、本プロジェクトでの議論が活かされている。